12 December 2013
第716号
平成25年12月1日発行
（毎月1日発行）

さめがわ

［広報］

Public Relations SAMEGAWA

里山のお・も・て・な・し

特集

さめがわの「食」の魅力を探る。

さめがわ
12 December 2013
平成25年12月1日発行（毎月1日発行）
第716号（昭和27年9月創刊）
発行／福島県鮫川村　編集／鮫川村役場企画調整課
〒963-8401　福島県東白川郡鮫川村大字赤坂中野字新宿39番地5

金婚を迎えたご夫婦を紹介

半世紀の歩み

Episode_08

大竹元一さん　睦子さん

青生野字江堀在住／昭和38年10月結婚

睦子さんにとって、元一さんは初恋の人だといいます。国道289号の開通工事をしているとき、お互い仕事に出ていて、そこで知り合いました。

こんにゃく栽培や養蚕など、農業をやりながら元一さんは会社務めをしていました。「子どもを一人前に」と2人で力を合わせ、また周りの人たちからのアドバイスなどを受けながら子育てに必死だったと振り返ります。「子どもが自立して働いてくれたことは、言葉にならないうれしさがある」と目頭を熱くしました。

これからは自分たちの老後を考え、のんびり生活していきたいと話します。「日本1周」を目標に、2人で旅行を楽しみたいそうです。

こちら村長室

▼「年越しそば」と聞くと、忘れられない「一杯のかけそば」という話があります。▼父の交通事故により多額の借金に苦しむ母子。大晦日に三人で一杯のかけそばを注文し、楽しそうに食べました。この三人に対するそば屋の主人たちの温かい心づかいや言葉に励まされ、家族は助け合い、そして、医師や銀行員になった息子たち。十年ぶりに一番ぜいたくな年越しそばを食べようと、母子三人で関西から札幌の「北海亭」を訪れ、昔の思い出を語り合うという話です。▼子育て中だった私と妻は、人の優しさ、助け合う家族の姿や温かさ、強さに心打たれ目頭を熱くしたものです。▼昨年、今年とまさに激動の年。こうしたときこそ、人と人のつながり（絆）や優しさを大切にすることを中心に据えていかねばと考えます。私たち大人が笑顔にならなければ、子どもに笑顔はありません。みんなで困難を乗り越え頑張りましょう。この一年のご支援、ご協力に感謝申し上げます。

大樂勝弘